

研究実施のお知らせ

研究課題名：症例報告：大腸内視鏡検査で偶発的に発見され内視鏡治療し得た早期回腸癌の一例

研究期間：令和2年4月13日～令和3年4月12日の予定

仙台市立病院では、上記課題名の研究を行います。「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成29年5月30日施行）に基づき、匿名化された情報（診療録等）の研究利用について、以下に公開いたします。

【研究の対象となる方】

当院で早期回腸癌を発見し内視鏡的切除術を施行、経過観察を行っている患者様。

【研究の目的と意義】

原発性小腸癌は全消化管癌の1%以下で、カプセル内視鏡やバルーン内視鏡など小腸内視鏡機器の進歩・普及により検出率は増加しているものの、特異的症状に乏しいため未だ進行癌で発見されることが多く、早期癌で指摘されることは極めて稀です。小腸癌の内視鏡治療の適応基準は明確に定まっていないものの、腫瘍径の比較的小さい粘膜内癌が適応とされます。小腸癌の好発部位はトライツ靭帯より肛門側60cm以内の空腸、回盲弁より50cm以内の回腸とされ、特に回腸においては回腸末端部に多いと報告されており、下部消化管内視鏡検査において回腸末端部のスクリーニングは早期病変の発見に重要な役割を持っています。今回我々は、検診便潜血陽性のために前医で全大腸内視鏡検査(TCS)を施行し指摘された大腸ポリープの内視鏡治療依頼に紹介となった患者様に対し、治療目的で当科にて施行したTCSで偶発的に早期回腸癌を発見しました。その内視鏡的特徴から粘膜内癌と判断し、内視鏡的治療を施行、治癒切除し得ました。貴重な治療症例と考え、論文発表を行う予定です。未だ報告数の少ない早期回腸癌の臨床的特徴をまとめることによって、今後の早期発見・治療に役立てていくことを目的とします。

【研究の方法】

後方視的に電子カルテより病歴を拾い上げ、各種画像を選出します。病理組織所見については病理医と検討のうえ、選出します。

【研究に用いる試料・情報の種類】

診療録に記録された診療情報（経過、血液生化学所見、大腸内視鏡画像、CT画像、病理組織学的所見等）を研究に使用させていただきます。使用に際しては、倫理指針等により個人情報情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

【研究の実施体制】

この研究は、単施設研究として当院で実施されます。

主任研究者：野村栄樹 仙台市立病院消化器内科

分担研究者：菊地達也 仙台市立病院消化器内科

【お問い合わせ先】

この研究への情報提供を希望されないことをお申し出いただいた場合、その患者様の情報は利用しないようにいたします。ただし、お申し出いただいた時に、すでに研究結果が論文などで公表されていた場合などは、完全に廃棄できないことがあります。情報の利用を希望されない場合、あるいは不明な点やご心配なことがございましたら、ご遠慮なく下記連絡先までお問い合わせください。この研究への情報提供を希望されない場合でも、診療上何ら支障はなく、不利益を被ることはありません。

仙台市立病院 消化器内科

科部長：菊地達也（当院の研究責任者）

または 医長：野村栄樹

仙台市太白区あすと長町一丁目 1 番 1 号

電話：022-308-7111（代表）